**【Entry：066】**

**題名：韓国留学を通して学んだ平和統一**

**お名前：　梶本美智恵**

私は２０２４年３月から３か月間、韓国語語学留学に行きました。レベルテストを受け３級のクラスになりました。クラスの雰囲気はとても良く、様々な国から来ている学生たちとともに学べたことはとても良い経験になりました。ベトナム、中国、モンゴル、ミャンマー、タンザニア、ウズベキスタン、日本、そして韓国人である先生を含めて８か国の文化を知ることができ、また年齢的にも自分の息子たちよりも若い世代との交流は新鮮で刺激的でした。クラスで日本人は私一人だったので、「日本ではどうですか？」と尋ねられるたびに必然的に私が答えるしかなく、まるで国を代表しているかのような緊張感もあり、国を超えて交流するときは自国のことをよく知らなければならないと思いました。経済的問題や出生率、恋愛観、習慣などふだん何気なく捉えていることがその国特有のものであることに気づかされることもありました。授業の中で韓国の記念日について学んだとき、3.1節、顕忠日、光復節など先生は淡々と説明され、そこにいた私は少し胸痛くつらい思いをしながら聞いていたのですが、先生は事実だけを話されているだけだと思い、歴史の事実を事実として受け止め、ただ新しく良い関係を築いていけるよう努力していくことが大切なのだと思いました。その日先生は自分の国の歴史をよく知らなければならないとおっしゃり自国の記念日がどのような経緯を経て制定されたのか調べることが宿題となりました。その国の記念日にはその国の歴史があることを知った貴重な一日でした。

留学して一か月が過ぎる頃、中間試験が近づくにつれ私の心は焦りはじめました。単語が覚えられず、できないことばかりが目につき、不安でいっぱいになり逃げだしたくなっていたころ、ある男性が声をかけてくださいました。「勉強はどうですか？むずかしいでしょ。僕も３級の時は難しくて何度も逃げ出したくなりましたよ。でも何とか超えてきました。大丈夫ですよ。きっと出来ますよ」その温かい言葉に励まされ、逃げ出さず最後まで頑張ろうと決意し、毎日遅刻せず、欠席しないことと宿題・課題を期日までに提出することを目標にしました。その方は、大阪在住の６５歳の方で、私は自分よりも年上の方がいることがうれしかったこともあり、話しをよくするようになりました。その方は韓国に来たばかりの私にいろいろと教えて下さりとても情の深い方だと感じました。「どうして韓国語を学ぼうと思われたのですか？」という私の質問に「私は韓国人です。親の言葉がわからないなんておかしいでしょ」とおっしゃいました。その方は民団の方で、日本で生まれ日本で育ったが韓国語がわからないので語学留学をされたようです。ご両親のお墓がある済州島に行ってお墓の草を刈らないといけないと話される様子がとてもうれしそうで印象的でした。父母に対する心情の深さにとても感動しました。日本で生活しながらも故郷に帰り永遠の眠りにつきたかったご両親、父母の言葉を学びたいと思い留学し、父母の墓参りを楽しみにされている方、そのような方が日本にはたくさんいらっしゃるのではないか？行きたくても行くことができない人もいるのではないかと思うようになりました。いつでも故郷に行こくことができお墓参りに行くことができたらどんなに良いだろうかと思うようになり私の漠然とした韓半島統一への思いはより身近なものになりました。

「私から始まる平和統一」は人と人の出会いを通してその人の事情と心情を知ることから始まると思います。その人の背後には国があり、その国には歴史と文化があります。それらを理解した上でその人の事情と心情を知り共有して温かい関係性を築いていくことが第一歩であると思います。よく先生が「この教室は一つの家族だから間違えても恥ずかしいことはない」とおっしゃっていました。そのたびに私は「教室の中に国境はない」と感じ、このような関係性が発展していけば人類一家族も希望的だと感じました。これから多くの人と出会いながらその人の事情と心情に関心を持ち、愛をもって温かい関係性を築いていけるよう努力します。そしてその人の願いが成就されるよう懇切な祈りをささげられる私になりたいと思います。それが私から始まる平和統一への第一歩だからです。